

情報システムユーザースキル標準

研修コース体系化図

V2.0a

経 済 産 業 省

独立行政法人情報処理推進機構（IPA）

社団法人日本情報システム・ユーザー協会

情報システムユーザースキル標準センター

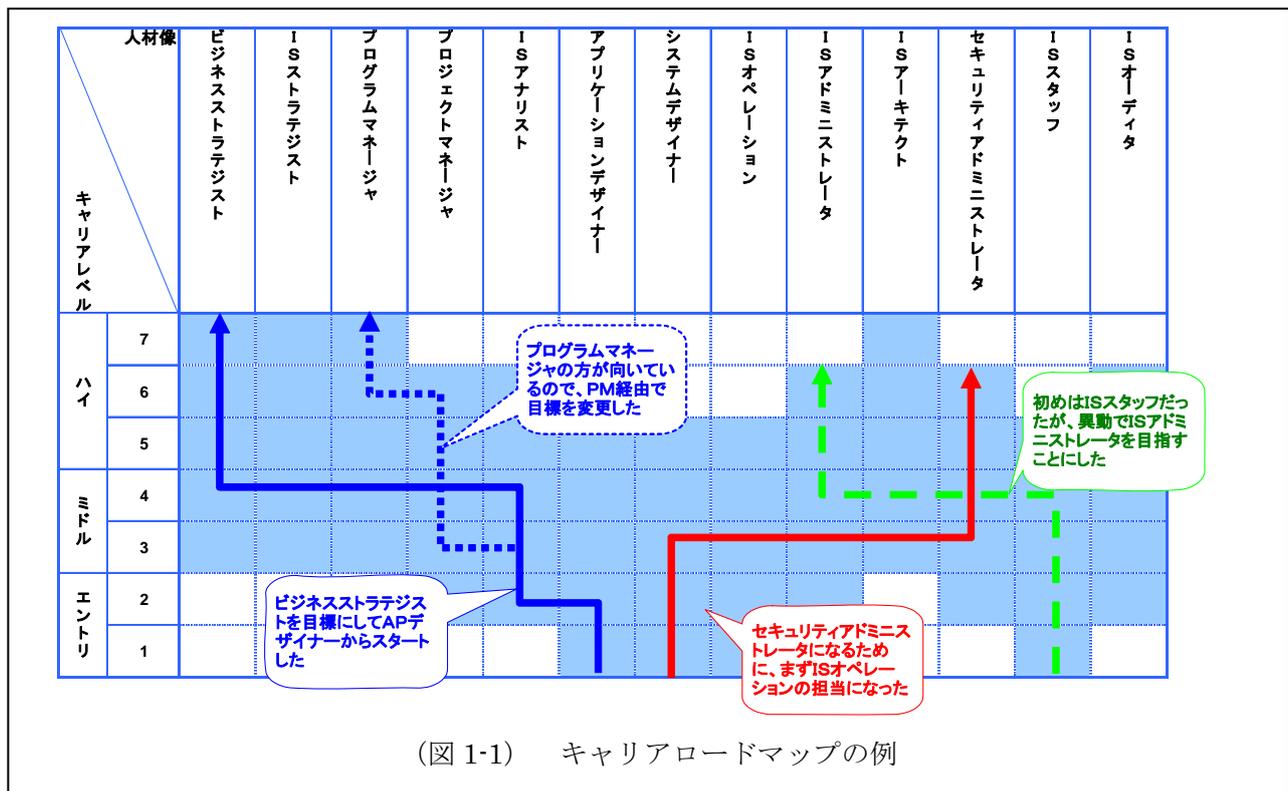
<表紙裏>

もくじ

1. キャリアロードマップによる研修計画	2
2. ビジネスストラテジストを目指す	3
2-1. (ステップ1)アプリケーションデザイナーのレベル1	3
2-2. (ステップ2)アプリケーションデザイナーのレベル2	4
2-3. (ステップ3) I Sアナリストのレベル2	5
2-4. (ステップ4) I Sアナリストのレベル3	5
2-5. (ステップ5) I Sアナリストのレベル4	6
2-6. (ステップ6)ビジネスストラテジストのレベル4	6
2-7. アプリケーションデザイナーおよび I Sアナリストの特論	7
2-8. ビジネスストラテジストの特論	7
3. プログラムマネージャを目指す	8
3-1. (ステップ1)アプリケーションデザイナーのレベル1	8
3-2. (ステップ2)アプリケーションデザイナーのレベル2	8
3-3. (ステップ3) I Sアナリストのレベル2	9
3-4. (ステップ4) I Sアナリストのレベル3	9
3-5. (ステップ5)プロジェクトマネージャのレベル3	9
3-6. (ステップ6)プロジェクトマネージャのレベル4	10
3-7. (ステップ7)プロジェクトマネージャのレベル5と プログラムマネージャのレベル5	10
3-8. アプリケーションデザイナーおよび I Sアナリストの特論	11
3-9. プロジェクトマネージャおよびプログラムマネージャの特論	11
4. セキュリティアドミニストレータを目指す	12
4-1. (ステップ1) I Sオペレーションのレベル1	12
4-2. (ステップ2) I Sオペレーションのレベル2	13
4-3. (ステップ3) I Sオペレーションのレベル3	14
4-4. (ステップ4)セキュリティアドミニストレータのレベル3	14
4-5. (ステップ5)セキュリティアドミニストレータのレベル4	15
4-6. I Sオペレーションの特論	15
4-7. セキュリティアドミニストレータの特論	16
5. I Sアドミニストレータを目指す	17
4-1. (ステップ1) I Sスタッフのレベル1	17
4-2. (ステップ2) I Sスタッフのレベル2	19
4-3. (ステップ3) I Sスタッフのレベル3	19
4-4. (ステップ4) I Sスタッフのレベル4	20
4-5. (ステップ5) I Sアドミニストレータのレベル4	20
4-6. I Sアドミニストレータの特論	21

1. キャリアロードマップによる研修計画

キャリアロードマップとは、将来の自分像を実現するために、そこに到達するまでの道筋をいいます。キャリアロードマップを明確にすることで、自分が組織の中でどのような人材像を目指すかという目標設計が容易になり、どのタイミングでどのような研修を受講すれば良いかが見えてきます。



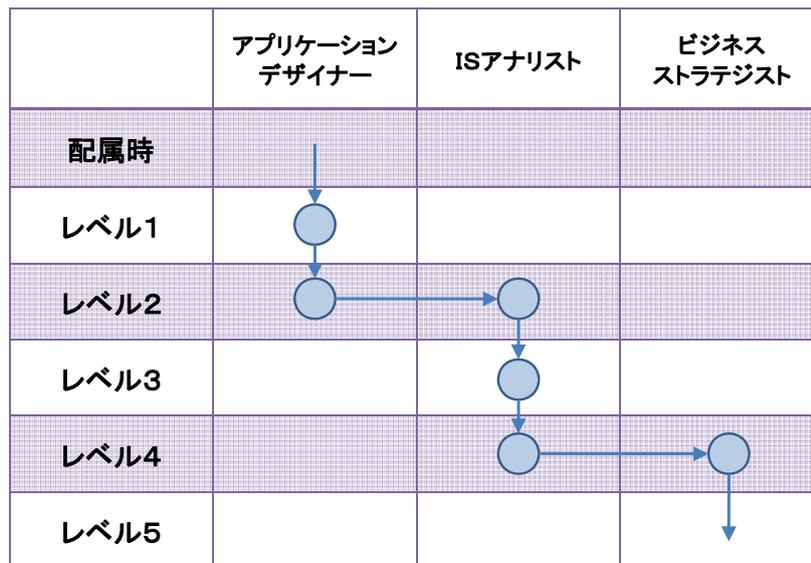
上記の例(図 1-1 参照)では、IS 部門内でよく有りそうな4つのキャリアロードマップのパターンを紹介しています。

- ① ビジネスストラテジストを目指して、アプリケーションデザイナーからスタートした。
- ② プログラムマネージャの方が向いているので、プロジェクトマネージャ経由で目標を変更した。
- ③ セキュリティアドミニストレータになるために、まずISオペレーションの担当になった。
- ④ 始めはISスタッフだったが、異動でISアドミニストレータを目指すことにした。

上記の4つのキャリアロードマップにおいて、どのような研修を受講すべきか、次ページから説明します。

2. ビジネスストラテジストを目指す

前述の①の例では、アプリケーションデザイナーからスタートし、I Sアナリストを経てビジネスストラテジストへと達成するキャリアロードマップを描いています。その道筋は、下図(図 2-1 参照)の通りです。



(図 2-1) ビジネスストラテジストを目指して、アプリケーションデザイナーからスタートした場合のキャリアロードマップ

2-1. (ステップ1) アプリケーションデザイナーのレベル1

アプリケーションデザイナーのレベル1は、I S部門に配属され、I S導入のアプリケーションコンポーネントの分析・設計、アプリケーションコンポーネントの開発、業務プロセスの詳細設計、I Sの受入、およびI S保守のアプリケーションコンポーネント保守に携わる新人を想定しています。

レベル1に達するためには、「(00)-I S入門」に定義された研修コースのうち、アプリケーションデザイナーが担当するI S導入およびI S保守に関する研修コース(表 2-1 参照)を受講します。その結果、業務に携わる最低限必要な知識を修得できます。

なお、I S部門に配属された新人を対象とする研修コースなので、「(00)-I S入門」の全研修コースを新人研修として体系化した教育を実施ことが理想です。全コースを実施することにより、情報処理技術者試験「I Tパスポート」の領域をすべて履修することができます。

(表 2-1) レベル 1 の研修コース一覧

ストラテジ系	マネジメント系	テクノロジー系
ビジネスインダストリ入門 システム戦略入門 (企業活動と法務入門) (経営戦略入門)	プロジェクトマネジメント入門 (サービスマネジメント入門) (システム監査入門)	基礎理論入門 ハードウェア入門 ソフトウェア入門 システム開発技術入門 マルチメディア入門 データベース入門 ネットワーク入門 セキュリティ入門

カッコ内の研修コースは、I S 導入および I S 保守には直接関連しないが、新人研修として体系立て実施する場合、そのカリキュラムに加えた方が望ましい研修コースを表しています

2-2. (ステップ 2) アプリケーションデザイナーのレベル 2

I S 導入または I S 保守に関係するアプリケーションデザイナーとして、要求された作業を担当する基本的知識・技能を有するレベル 2 に達成するためには、レベル 1 としての業務経験を積み、キャリア・アップすることを想定しています。

レベル 2 に達するためには、「(07)- I S 導入」または「(10)- I S 保守」に定義された研修コースのうち、アプリケーションデザイナーが担当する I S 導入に関連する研修コース(表 2-2 参照)および I S 保守に関連する研修コース(表 2-3 参照)を受講します。その結果、業務の基本的知識・技能を修得することができます。

(表 2-2) I S 導入レベル 2 の研修コース一覧

テクノロジー系	マネジメント系	ストラテジ系
I T 要素技術 アプリケーション開発 プログラム設計とプログラミング I S 運用初級 I S 保守初級		

(表 2-3) I S 保守レベル 2 の研修コース一覧

テクノロジー系	マネジメント系	ストラテジ系
I T 要素技術 アプリケーション開発 I S 運用初級	I S 保守初級 セキュリティ管理初級 システム資産管理	システム要件定義

2-3. (ステップ3) ISアナリストのレベル2

アプリケーションデザイナーのレベル2から、IS戦略の実現に向けた個別案件のIS規格の策定・評価を担当するISアナリストへの、IS機能内でのキャリア・チェンジを想定しています。

アプリケーションデザイナーのレベル2からISアナリストのレベル2へキャリア・チェンジするためには、研修コースの差分を受講します。この例では、同じアプリケーションデザイナーでも、IS導入とIS保守とでは業務と研修コースとの違いがあるところからIS導入からの研修コース(表2-4参照)とIS保守からの研修コース(表2-5参照)は異なります。

(表2-4) IS導入からの差分の研修コース一覧

テクノロジー系	マネジメント系	ストラテジ系
	IS受入管理 IS運用管理	IS企画初級 事業戦略初級 システム要件定義

(表2-5) IS保守からの差分の研修コース一覧

テクノロジー系	マネジメント系	ストラテジ系
	IS受入管理 IS運用管理	

上記の2つの表は、差分だけを記載しています

2-4. (ステップ4) ISアナリストのレベル3

ISアナリストのレベル2から要求された業務を独力で遂行し、プロフェッショナルとしての応用的知識・技能を有するレベル3へのキャリア・アップを達成するためには、上位者の下での業務経験を積み、その結果、業務を独力で遂行できるようになることを想定しています。

レベル3に達するためには、ISアナリストが携わるIS企画・評価に関係する中級レベルの研修コース(表2-6参照)を受講し、プロフェッショナルとしての応用的知識・技能を修得します。

この段階に入ると、講義やeラーニングがほとんどであった研修コースは、ワークショップの時間が長くなるなど、研修方法にも変化がでてきます。

(表 2-6) I S企画・評価のレベル3の研修コース一覧

テクノロジ系	マネジメント系	ストラテジ系
アプリケーションアーキテクチャ モニタリング手法	プロジェクトマネジメント 実践	I S企画中級 業務プロセスのモデリング手法 システム方式の策定・調達 I Tプランニング

2-5. (ステップ5) I Sアナリストのレベル4

I Sアナリストのレベル3から独力で業務上の課題の発見と解決をリードし、経験の知識化とその貢献をするレベル4へのキャリア・アップを達成するためには、業務を独力で遂行し、その結果、後進育成などができることを想定しています。

レベル4に達するためには、I Sアナリストが携わるI S企画・評価に関係する上級レベルの研修コース(表 2-6 参照)を受講し、応用的技能を修得します。

この段階に入ると、ほとんどの研修コースが、講義やeラーニングによる知識の修得より、ワークショップによる気付きの獲得を考慮する研修方法になってきます。

(表 2-6) I S企画・評価のレベル4の研修コース一覧

テクノロジ系	マネジメント系	ストラテジ系
		I S企画中級 I T統制

2-6. (ステップ6) ビジネスストラテジストのレベル4

キャリアロードマップの目標である「全社戦略の実現に向けた事業戦略を策定・評価するビジネスストラテジスト」へ、I S機能から全社へのキャリア・チェンジを想定しています。

ここで行うキャリア・チェンジは、I S機能という限られた範囲から全社へと拡がりがあり、レベル4の差分の研修コース(表 2-7 参照)だけを受講すれば済む問題ではありません。ここでは、I Sを活用してビジネスを実現する立場からビジネスを経営する立場に変わりますので、ビジネスストラテジストの領域となる研修コースのレベル3やレベル2の、特に戦略に関する研修コースは受講すべきと思われます。

(表 2-7) I Sアナリストからのレベル4の差分の研修コース一覧

テクノロジー系	マネジメント系	ストラテジ系
		事業戦略上級 I S戦略上級

(表 2-8) ビジネスストラテジストのレベル3・レベル2の研修コース一覧

テクノロジー系	マネジメント系	ストラテジ系
	プロジェクトマネジメント初級 内部統制概論 プログラミムネジメント	戦略立案初級 I S戦略初級 事業戦略中級 戦略立案中級 I S戦略中級 事継続計画

2-7. アプリケーションデザイナーおよびI Sアナリストの特論

アプリケーションデザイナーやI Sアナリストは、最新の技術や動向、手法などを身に付けるために、レベルには関係ない研修コース(表 3-6 参照)として特論が設定されています。特論は、新たな動きがある都度、受講されることをお勧めします。

(表 3-6) アプリケーションデザイナーおよびI Sアナリストの特論の研修コース一覧

テクノロジー系	マネジメント系	ストラテジ系
最新技術動向		インダストリアプリケーション動向

2-8. ビジネスストラテジストの特論

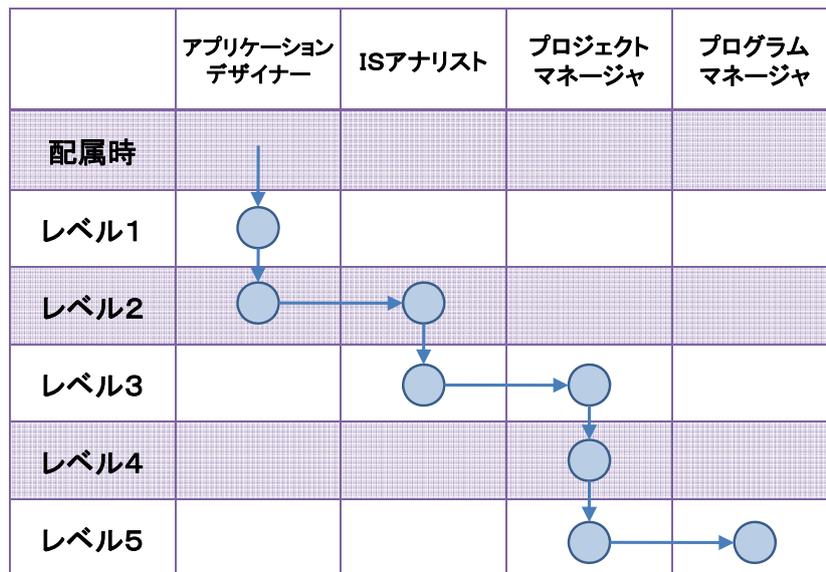
ビジネスストラテジストは、最新技術や祭神ビジネス動向を考慮した戦略的な観点や、ストラテジの策定における手法としてや流行などがあるために、レベルには関係ない研修コース(表 3-7 参照)として、特論が設定されています。

(表 3-7) プロジェクトマネージャおよびプログラムマネージャの特論の研修コース一覧

テクノロジー系	マネジメント系	ストラテジ系
最新技術動向		インダストリアプリケーション動向 オペレーションズ・マネジメント動向

3. プログラムマネージャを目指す

前述の②の例は、プログラマネージャの方が向いているので、プロジェクトマネージャ経由で目標を変更したキャリアロードマップです。その道筋は、次ページ図(図 3-1 参照)の通りです。



(図 3-1) プログラムマネージャの方が向いているので、プロジェクトマネージャ経由で目標を変更した場合のキャリアロードマップ

3-1. (ステップ1) アプリケーションデザイナーのレベル1

アプリケーションデザイナーのレベル1については、「2. ビジネスストラテジストを目指す」の「2-1. (ステップ1) アプリケーションデザイナーのレベル1」と、同様です。P. 2をご覧ください。

3-2. (ステップ2) アプリケーションデザイナーのレベル2

アプリケーションデザイナーのレベル2については、「2. ビジネスストラテジストを目指す」の「2-2. (ステップ1) アプリケーションデザイナーのレベル2」と、同様です。P. 3をご覧ください。

3-3. (ステップ3) ISアナリストのレベル2

アプリケーションデザイナーのレベル2から、IS戦略の実現に向けた個別案件のIS規格の策定・評価を担当するISアナリストへのキャリア・チェンジについては、「2. ビジネスストラテジストを目指す」の「2-2. (ステップ3) ISアナリストのレベル2」と、同様です。P. 3をご覧ください。

3-4. (ステップ4) ISアナリストのレベル3

ISアナリストのレベル2から要求された業務を独力で遂行し、プロフェッショナルとしての応用的知識・技能を有するレベル3へのキャリア・アップを達成するキャリア・アップについては、「2. ビジネスストラテジストを目指す」の「2-2. (ステップ3) ISアナリストのレベル2」と、同様です。P. 3をご覧ください。

3-5. (ステップ5) プロジェクトマネージャのレベル3

ISアナリストのレベル3から、IS戦略の実現に向けて、個別プロジェクトを独力でマネジメントするレベル3のプロジェクトマネージャへのIS機能内のキャリア・チェンジを想定しています。

ここで行うキャリア・チェンジは個別案件のプロジェクトに対して、企画の立案と評価する立場から、企画をマネジメントする立場に切り替わります。そのため、レベル3の差分となる研修コース(表 3-1 参照)だけでなく、プロジェクトマネジメントのレベル2の研修コース(表 3-2 参照)も受講し、マネジメントの観点を養う必要があります。

(表 3-1) ISアナリストからのレベル3の差分の研修コース一覧

テクノロジ系	マネジメント系	ストラテジ系
実践アードバリュー マネジメント (EVM)	プロジェクトマネジメント 実践	プロジェクトマネジメント 方法論 (システム開発)

(表 3-2) プロジェクトマネジメントのレベル2の研修コース一覧

テクノロジ系	マネジメント系	ストラテジ系
プロジェクトマネジメント (ツールとプロセス)	プロジェクトマネジメント 初級	

3-6. (ステップ6) プロジェクトマネージャのレベル4

プロジェクトマネジメントのレベル3から、プロジェクトマネジメントのエキスパートとして認定され、後進育成などの範囲にまで広げたレベル4へのキャリア・アップを想定しています。

レベル4に達するためには、プロジェクトマネージャが関わる個別案件のマネジメントに関係する上級レベルの研修コース(表 3-3 参照)を受講し、人的管理の観点などはプロジェクトからプログラムへと拡がりを持つ応用的技能を修得します。

この段階に入ると、ほとんどの研修コースが、講義やeラーニングによる知識の修得より、ワークショップによる気づきの獲得を考慮する研修方法になってきます。

(表 3-3) プロジェクトマネジメントのレベル4の研修コース一覧

テクノロジ系	マネジメント系	ストラテジ系
	プロジェクトマネジメント 上級	

3-7. (ステップ7) プロジェクトマネージャのレベル5と

プログラママネージャにレベル5

今回、ご紹介する例では、プロジェクトマネージャのレベル5のキャリア・アップし、その後にプログラママネージャのレベル5へとキャリア・チェンジしています。

レベル5は、社内において、自他共に認める経験と実績を有するハイエンドプレーヤーの位置付けから、研修コースでは達成できない実績を優先しているため、キャリア・アップのための具体的な研修コースは設定していません。

ただし、レベル5以上であっても、キャリア・チェンジを伴う場合は、チェンジする先の研修コースを受講することが望ましいケースが多くあります。

プロジェクトマネージャからプログラママネージャへチェンジする場合、個別案件ごとにマネジメントする立場から、複数の個別案件をマネジメントしますので、より高度な能力を求められます。したがって、レベル5以上のキャリア・チェンジでも、プログラママネージャ独自で差分となる研修コース(表 3-4 参照)やプログラママネジメント上必要な知識を含む研修コース(表 3-5 参照)を受講されることをお勧めします。

(表 3-4) プログラムマネジメントの独自の研修コース一覧

テクノロジー系	マネジメント系	ストラテジ系
	プログラムマネジメント	

(表 3-5) プログラムマネジメント上必要な知識を含む研修コース一覧

テクノロジー系	マネジメント系	ストラテジ系
I S 保守中級 I S 運用管理	セキュリティ管理中級	戦略立案初級 戦略立案中級 I S 戦略中級 I S 戦略上級 内部統制概論 コンプライアンスプログラム 事業継続計画

3-8. アプリケーションデザイナーおよび I S アナリストの特論

アプリケーションデザイナーや I S アナリストは、最新の技術や動向、手法などを身に付けるために、レベルには関係ない研修コース(表 3-6 参照)として特論が設定されています。特論は、新たな動きがある都度、受講されることをお勧めします。

(表 3-6) アプリケーションデザイナーおよび I S アナリストの特論の研修コース一覧

テクノロジー系	マネジメント系	ストラテジ系
最新技術動向		インダストリアプリケーション動向

3-9. プロジェクトマネージャおよびプログラムマネージャの特論

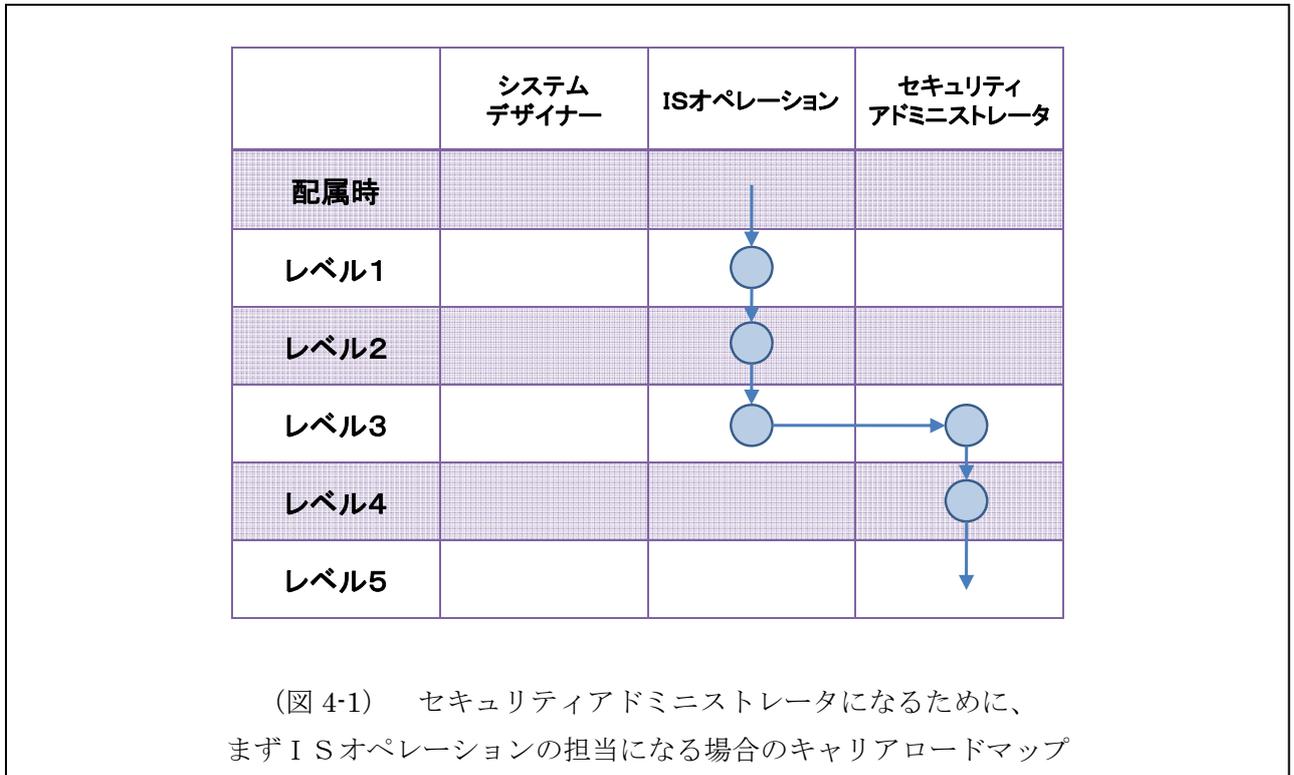
プロジェクトマネージャおよびプログラムマネージャは、その手法として最新技術や流行などがあるために、レベルには関係ない研修コース(表 3-7 参照)として特論が設定されています。特論は、新たな動きがある都度、受講されることをお勧めします。

(表 3-7) プロジェクトマネージャおよびプログラムマネージャの特論の研修コース一覧

テクノロジー系	マネジメント系	ストラテジ系
	プロジェクトマネジメントの最新動向	

4. セキュリティアドミニストレータを目指す

前述の③の例は、セキュリティアドミニストレータになるために、まず I S オペレーションの担当になるキャリアロードマップを描いています。その道筋は、下図(図 4-1 参照)の通りです。



4-1. (ステップ1) I S オペレーションのレベル1

I S オペレーションのレベル1は、

アプリケーションデザイナーのレベル1は、I S 部門に配属され、I S の効果の最大化のために、システム運用を安定的かつ効率的に実施する業務に携わる新人を想定しています。

レベル1に達するためには、I S オペレーションが担当する I S 運用に関する研修コース(表 4-1 参照)を受講します。その結果、業務に携わる最低限必要な知識を修得できます。

なお、P. 2でも述べましたが、I S 部門に配属された新人を対象とする研修コースなので、「(00)-I S 入門」の全研修コースを新人研修として体系化した教育を実施ことが理想です。全コースを実施することにより、情報処理技術者試験「I T パスポート」の領域をすべて履修することができます。

(表 4-1) レベル 1 の研修コース一覧

ストラテジ系	マネジメント系	テクノロジー系
(ビジネスインダストリ入門) (システム戦略入門) (企業活動と法務入門) (経営戦略入門)	サービスマネジメント入門 (プロジェクトマネジメント入門) (システム監査入門)	ハードウェア入門 ソフトウェア入門 システム開発技術入門 マルチメディア入門 データベース入門 ネットワーク入門 セキュリティ入門 (基礎理論入門)

カッコ内の研修コースは、I S 運用には直接関連しないが、新人研修として体系立てて実施する場合、そのカリキュラムに加えた方が望ましい研修コースを表しています

4-2. (ステップ2) I S オペレーションのレベル2

I S 運用に関係する I S オペレーションとして、要求された作業を担当する基本的知識・技能を有するレベル2に達成するためには、レベル1としての業務経験を積み、キャリア・アップすることを想定しています。

レベル2に達するためには、I S 運用に定義された研修コースのうち、レベル2に関連する研修コース(表 4-2 参照)を受講します。その結果、業務の基本的知識・技能を修得することができます。

(表 4-2) I S オペレーションのレベル2の研修コース一覧

テクノロジー系	マネジメント系	ストラテジ系
I S 運用初級 I S 保守初級 I T 要素技術 システムコンポーネント構築 アプリケーション開発 セキュリティ技術初級	システム資産管理 情報資産管理 施設設備管理初級	

4-3. (ステップ3) I Sオペレーションのレベル3

I Sオペレーションのレベル2から、要求された業務を独力で遂行し、プロフェッショナルとしての応用的知識・技能を有するレベル3へのキャリア・アップを達成するためには、上位者の下での業務経験を積み、その結果、業務を独力で遂行できるようになることを想定しています。

レベル3に達するためには、I Sオペレーションが携わるI S運用に関係する中級レベルの研修コース(表4-3参照)を受講し、プロフェッショナルとしての応用的知識・技能を修得します。

この段階に入ると、講義やeラーニングがほとんどであった研修コースは、ワークショップの時間が長くなるなど、研修方法にも変化がでて、マネジメント的要素が強まってきます。

(表4-3) I Sオペレーションのレベル3の研修コース一覧

テクノロジー系	マネジメント系	ストラテジ系
I S運用技術 I S受入	I S運用管理 障害監視・対策 ユーザーサポート システム移行 セキュリティ管理初級 I S保守中級	システム要件定義 災害対策

4-4. (ステップ4) セキュリティアドミニストレータのレベル3

I Sオペレーションのレベル3から、セキュリティの専門家として、セキュリティに関する業務を独力で実施するレベル3のセキュリティアドミニストレータへと、I S機能内のキャリア・チェンジを想定しています。

ここで行うキャリア・チェンジは、I Sを実現するためにシステム運用を安定的かつ効率的に実施する業務からセキュリティに関する専門業務へと、立場が切り替わります。そのため、レベル3の差分となる研修コース(表4-4参照)だけでなく、セキュリティアドミニストレータのレベル2の研修コース(表4-5参照)も受講し、セキュリティの専門家の観点を養う必要があります。

(表 4-4) I Sオペレーションからのレベル3の差分の研修コース一覧

テクノロジー系	マネジメント系	ストラテジ系
セキュリティ技術中級	セキュリティ管理中級	セキュリティガイドライン

(表 4-5) セキュリティアドミニストレータのレベル2の研修コース一覧

テクノロジー系	マネジメント系	ストラテジ系
		情報セキュリティポリシー

4-5. (ステップ5) セキュリティアドミニストレータのレベル4

セキュリティアドミニストレータのレベル3から、セキュリティのエキスパートとして認定され、後進育成などの範囲にまで広げたレベル4へのキャリア・アップを想定しています。

レベル4に達するためには、セキュリティに関するテクノロジー、マネジメント、ストラテジなどの上級レベルの研修コース(表 4-6 参照)を受講し、自らだけでなく、セキュリティスペシャリストへと拡がりを持つ応用的技能を修得します。

この段階に入ると、ほとんどの研修コースが、講義やeラーニングによる知識の修得より、ワークショップによる気づきの獲得を考慮する研修方法になってきます。

(表 4-6) セキュリティアドミニストレータのレベル4の研修コース一覧

テクノロジー系	マネジメント系	ストラテジ系
セキュリティ技術上級	セキュリティ管理上級	セキュリティガイドライン上級

4-6. I Sオペレーションの特論

I Sオペレーションは、その取り扱う技術の特性から、最新の観点を求められるために、レベルには関係ない研修コース(表 4-7 参照)として特論が設定されています。特論は、新たな動きがある都度、受講されることをお勧めします。

(表 4-7) I Sオペレーションの特論の研修コース一覧

テクノロジー系	マネジメント系	ストラテジ系
最新技術動向		

4-7. セキュリティアドミニストレータの特論

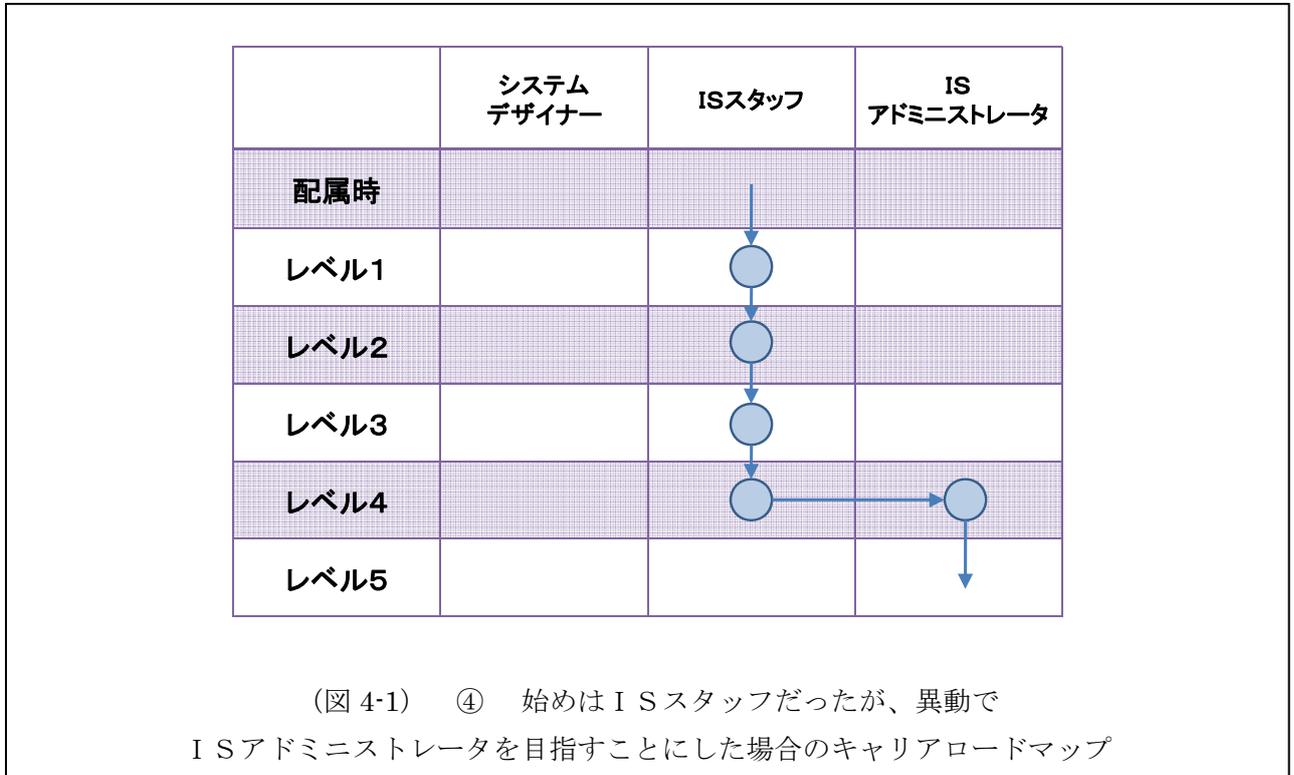
セキュリティアドミニストレータは、最新の技術や動向、手法などを身に付ける必要がある領域のために、レベルには関係ない研修コース(表 4-8 参照)として特論が設定されています。特論は、新たな動きがある都度、受講されることをお勧めします。

(表 4-8) セキュリティアドミニストレータの特論の研修コース一覧

テクノロジー系	マネジメント系	ストラテジ系
最新セキュリティ技術動向		

5. ISアドミニストレータを目指す

前述の④の例は、ISスタッフからISアドミニストレータを目指すキャリアロードマップを描いています。その道筋は、下図(図 5-1 参照)の通りです。



5-1. (ステップ1) ISスタッフのレベル1

ISスタッフは、企業活動におけるIS機能全般に対し、安定的・効率的な運営の企画策定または遂行するために、①全社の情報資産の管理と共有化による生産性向上のため、体制整備から施策の実施・改善を担当する資産管理、②計事業継続計画のIS領域に関わる計画策定から遂行を担当する事業継続計画、③IS領域に関わるコンプライアンス管理方針と体制の整備、実施と改善を担当するコンプライアンス(法令遵守)、④IS部門およびIS利用部門のIS活用における人的資源確保のために、人材育成施策の企画、遂行を担当する人的資源(人材育成)管理、⑤IS領域に関わる社外との適切な契約関係の実現のため、契約業務全般の基準・ルールなどの整備や維持管理を担当する契約管理、の5つの分野があります。

ISスタッフのレベル1は、IS部門に配属され、IS機能全般に対し、安定的・効率的な運営の企画策定または遂行する共通業務に携わる新人を想定しています。

レベル1に達するためには、I Sスタッフとして担当する共通業務の分野のうち、1つから5つ分野を選択して、それに関する研修コース(表5-1参照)を受講します。その結果、業務に携わる最低限必要な知識を修得できます。

なお、P. 2でも述べましたが、I S部門に配属された新人を対象とする研修コースなので、「(00)-I S入門」の全研修コースを新人研修として体系化した教育を実施ことが理想です。全コースを実施することにより、情報処理技術者試験「I Tパスポート」の領域をすべて履修することができます。

(表5-1) レベル1の研修コース一覧

分野	ストラテジ系	マネジメント系	テクノロジー系
全分野	企業活動と法務入門 経営戦略入門 (ビジネスインダストリ入門) (システム戦略入門)	プロジェクトマネジメント入門 サービスマネジメント入門 システム監査入門	
資産管理	企業活動と法務入門 経営戦略入門 (ビジネスインダストリ入門) (システム戦略入門)	サービスマネジメント入門 (プロジェクトマネジメント入門) (システム監査入門)	
事業継続	企業活動と法務入門 経営戦略入門 (ビジネスインダストリ入門) (システム戦略入門)	サービスマネジメント入門 (プロジェクトマネジメント入門) (システム監査入門)	(ハードウェア入門) (ソフトウェア入門) (システム開発技術入門) (マルチメディア入門)
法令遵守	企業活動と法務入門 (経営戦略入門) (ビジネスインダストリ入門) (システム戦略入門)	システム監査入門 (プロジェクトマネジメント入門) (サービスマネジメント入門)	(データベース入門) (ネットワーク入門) (セキュリティ入門) (基礎理論入門)
人的資源	企業活動と法務入門 (経営戦略入門) (ビジネスインダストリ入門) (システム戦略入門)	プロジェクトマネジメント入門 (サービスマネジメント入門) (システム監査入門)	
契約管理	企業活動と法務入門 (経営戦略入門) (ビジネスインダストリ入門) (システム戦略入門)	プロジェクトマネジメント入門 (サービスマネジメント入門) (システム監査入門)	

カッコ内の研修コースは、共通業務には直接関連しないが、新人研修として体系立て実施する場合、そのカリキュラムに加えた方が望ましい研修コースを表しています
テクノロジー系は、全分野共通です。

5-2. (ステップ2) ISスタッフのレベル2

共通に関係するISスタッフとして、要求された作業を担当する基本的知識・技能を有するレベル2に達成するためには、レベル1としての業務経験を積み、キャリア・アップすることを想定しています。

レベル2に達するためには、レベル1と同様にISスタッフとして担当する共通業務の分野のうち、1つから5つ分野を選択して、そこに定義された研修コースのうち、レベル2に関連する研修コース(表5-2参照)を受講します。その結果、業務の基本的知識・技能を修得することができます。

(表5-1) レベル2の研修コース一覧

分野	テクノロジー系	マネジメント系	ストラテジ系
資産管理		システム資産管理 情報資産管理 施設設備管理初級	
事業継続			災害対策
法令遵守			コンプライアンスプログラム
人的資源			教育研修計画と運営
契約管理		サービスレベルマネジメント 契約と契約管理	

5-3. (ステップ3) ISスタッフのレベル3

共通業務のそれぞれに関与するISスタッフとして、要求された作業を担当する基本的知識・技能を有するレベル2に達成するためには、レベル1としての業務経験を積み、キャリア・アップすることを想定しています。

レベル2に達するためには、共通業務に定義された研修コースのうち、レベル2に関連する研修コース(表5-2参照)を受講します。その結果、業務の基本的知識・技能を修得することができます。

なお、共通業務として関与する領域により、契約管理など研修コースの設定がない分野もあります。

(表 5-2) レベル3の研修コース一覧

分野	テクノロジー系	マネジメント系	ストラテジ系
資産管理		施設設備管理	
事業継続			事業継続計画
法令遵守			コンプライアンスガイドライン策定
人的資源			人材育成・配置計画
契約管理			

5-4. (ステップ4) ISスタッフのレベル4

ISスタッフのレベル3から、要求された業務を独力で遂行し、プロフェッショナルとしての応用的知識・技能を有するISスタッフのレベル4へのキャリア・アップを達成するためには、上位者の下での業務経験を積み、その結果、業務を独力で遂行できるようになることを想定しています。

共通業務については、レベル4以上の研修コースの設定がないために、レベル2までに修得した知識を極め、業務を通じてプロフェッショナルとしての応用的知識・技能を修得します。

5-5. (ステップ5) ISアドミニストレータのレベル4

ISスタッフのレベル4から、ISアドミニストレータのレベル4へのIS機能内でのキャリア・チェンジには、スタッフとしての管理業務だけではなく、ISの効果の最大化のために、利用実態に即した活用計画を策定し、施策を遂行することを想定しています。

ここで行うキャリア・チェンジは、ISスタッフ部門から利用実態に即した活用計画を策定し、施策を遂行へと、立場が切り替わります。そのため、レベル4の差分となる研修コース(表 5-3 参照)だけでなく、ISアドミニストレータのレベル3やレベル2の研修コース(表 5-4 参照)も受講し、ストラテジ的かつマネジメント的な観点を養うことをお勧めします。

(表 5-3) I S スタッフからのレベル4の差分の研修コース一覧

テクノロジー系	マネジメント系	ストラテジ系
	I S 活用促進上級	

(表 5-4) I S アドミニストレータのレベル3・レベル2の研修コース一覧

テクノロジー系	マネジメント系	ストラテジ系
モニタリング手法	I S 活用促進中級 I S 活用促進初級	データの戦略活用 事業戦略初級 戦略立案初級 戦略立案中級

5-6. I S アドミニストレータの特論

I S アドミニストレータは戦略的かつマネジメント的な観点を求められるために、最新の技術や動向、手法などを身に付けるために、レベルには関係ない研修コース(表 5-5 参照)として特論が設定されています。特論は、新たな動きがある都度、受講されることをお勧めします。

(表 5-3) I S アドミニストレータの特論の研修コース一覧

テクノロジー系	マネジメント系	ストラテジ系
		インダストリアプリケーション動向 オペレーションズ・マネジメント概論